

チチブコウモリ *Barbastella darjelingensis* (Hodgson)

【選定理由】

国内では北海道と本州に分布することが知られている。北海道では多数の個体が捕獲されているが、本州ではごく少数の捕獲例しか知られていない (子安・織田, 2009 など)。愛知県では新城市玖老勢 (2006 年 12 月 10 日：橋本 肇氏) と豊根村 (2007 年 2 月：佐藤ほか, 2008) の記録があり (子安・織田, 2009)、東栄町でも確認されている (寺西, 2016)。

【形態】

左右の耳介の根元が頭頂部で接触するのが特徴で、前腕長 39~44mm、頭胴長 50~63mm、尾長 43~54mm、褐色系の体毛を持つ (子安・織田, 2009 など)。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根村富山 (佐藤ほか, 2008) と新城市玖老勢で知られていたが (子安・織田, 2009)、東栄町でも確認された (寺西, 2016)。

【国内の分布】

北海道 (国後島を含む)、岩手、福島、埼玉、東京、神奈川、静岡、長野、愛知、岐阜、愛媛、高知 (Fukui, 2015 など)。

【世界の分布】

日本 (北海道、本州、四国)、中国西部、ネパール、インド、アフガニスタン、イラン北部、パミールからコーカサス、シナイ半島、エリトリア、エジプト (Fukui, 2015 など)。

【生息地の環境／生態的特性】

岐阜県では、高山市高根町の野麦峠周辺の原生林と人工林が混在している場所の樹洞での出産が 2007 年の 7~9 月に山本輝正氏らによって確認されている (朝日新聞 2008 年 5 月 11 日付岐阜全県版朝刊)。愛知県で生息が確認された豊根村では、2007 年 2 月 17 日に富山のトンネル (周囲の植生は低木層に多様な広葉樹が見られるスギ人工林) 内で冬眠中の雌雄不明 2 個体を確認したものである (佐藤ほか, 2008)。

【現在の生息状況／減少の要因】

豊根村富山地域での冬眠個体の発見 (佐藤ほか, 2008) は、愛知県内における本種の生息と越冬洞の存在をあきらかにしたものと見えよう。しかしながら、県内には生物多様性の高い森林が限局的にしか存在せず、しかも繁殖コロニーの形成を可能にする巨木の樹洞もきわめて稀である。したがって、現時点では県内において本種の繁殖コロニーが発見される可能性は低いといわざるをえない。本種の減少の要因は伐採による原生林の縮小によって採餌場所が喪失されて個体群の維持が困難になったこと、繁殖コロニーを確立できる樹洞がほとんど失われたことである。

【保全上の留意点】

本種が県内で繁殖しているかについては不明であるが、その飛行能力の大きさから採餌圏として県内が本種の分布範囲に含まれているのは確実である。当面は原生林とその周辺の広葉樹林の保全に努めるとともに、生物多様性を高めるような植林や人工樹洞の設置などを推進する必要がある。

【特記事項】

2007 年 2 月 17 日に富山のトンネル (隧道) で発見された冬眠中の 2 頭のうち、1 頭は隧道の壁面に直接しがみついていたが、1 頭は壁面の裂隙内に潜んで冬眠していたという (佐藤ほか, 2008)。東栄町の個体は橋本肇氏によって 2008 年 1 月に確認されたものである (寺西, 2016)。

【引用文献】

- 子安和弘・織田銃一, 2009. チチブコウモリ. レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.70. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
Fukui, D. 2015. *Barbastella darjelingensis* (Hodgson, 1855). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.88-89. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
佐藤顕義・勝田節子・山本輝正, 2008. 愛知県におけるチチブコウモリとヒナコウモリの記録. マンモス特別号, (10): 25-28.
寺西敏夫, 2016. 愛知県におけるコウモリ相と生息実態. NPO 法人東洋蝙蝠研究所 2016 年度研究会抄録 (自刊)。

(子安和弘・織田銃一)

